SLiiiC SWC2015 報告書

稲井田雛乃

はじめに――ワークショップ設計について

SLiiiC の方が、今回の SWC ではワークショップを作りたいが参加もしたい、という自分の我儘を聞いてくださったので私はどちらもできることになり、２日目のワークショップの初めの時間を鈴木さんと一緒にいただきました。ワークショップを作るのは初めてで、どうすればいいのかと困ることも多々ありましたが、小峰先生と鈴木さんの助けもあって短いですが濃い時間が作れたかと思います。

全体を通して自分ができたこと・できなかったこと

一番印象に残った自分のできたことは、「いろんな人と話すこと」です。１日目は講演や発表、POP 作りなど思わず集中してしまうようなものが多かったですが、その後の懇談会や２日目のワークショップでは多くの方と図書館について、本について、学びについて話すことができました。実際に現場で働いている・活動をしている方のお話は非常に勉強になりました。またそれらのお話を受けて自分の中で図書館についての問題意識が大きくなりました。

ワークショップでは、話しやすい空間を作るお手伝いができたかなと思います。部屋に入った参加者の方が、すごいと言ってくださったことが嬉しかったです。自分たちで作ったはじめの時間では、参加している皆さんを見て、コミュニケーションをしっかりとれる問いを提供できたと思いました。しかし時間が足りず、全体的に急ぎ足にさせてしまったとも思います。適切な時間設定が、今回できなかったことだと感じました。また時間を区切る時の知らせ方も、どこでやめればいいのか迷い強引な切り方になっていたところがあったかと思います。このような形で、参加しているみなさんにはプレッシャーを与えてしまったかもしれません。この経験は、必ず今後に生かしていきます。

SWC に参加した感想

まず、純粋に、今まで図書館のことを話す相手があまりいなかったのでとても楽しかったです。普段はなかなか話せないような、多様な年代の方とのお話も刺激的でした。なかでも同年代の大学生が行っている図書館に関する活動には、特に感激しました。大学生のうちからいろいろな形で図書館に関われるのだと知って、自分にも勉強以外にもっとできることがあるのではないかと考えるようになりました。これからは私も、図書館についてもっと具体的な行動をしていこうと思います。

そして、私はまだ学校図書館には利用者としての立場でしか関わっていませんが、SWC を通じて生徒と司書の距離について、とても考えさせられました。生徒 1 人 1 人との適切な距離は当然違うでしょうが、図書館をいい場所だと、本を自分の助けになるものだと感じるような読書環境提供のためには、そういうものが重要になってくるのではないかと思います。

また、学び続けるというのは、歳をとることなのかなと私は思いました。生きている限り、毎日何らかの学びがあると感じるからです。その毎日の学びの質をあげるために、図書館や読書環境を提供できる人々の存在が、周囲の人々にとって大切なのだと思いました。

おわりに

ワークショップの設計と参加を許可してくださった SLiiiC の皆さん、小峰先生と鈴木さん、そしてお会いした皆さん、ワークショップに参加してくださった皆さん、本当にありがとうございました。

この度のサマー・ワーク・キャンプでのワークショップが、SLiiiC さんと参加者のみなさんの今後にお役に立てていただければ嬉しいです。